

平成 29 年度経済学部学生チャレンジプロジェクト事業成果報告書

学んで、伝える！船内ガイド in 直島

代表 難波 恵伍（地域社会システム学科 2 年生）



（1）目的と概要

近頃では瀬戸内国際芸術祭などの影響により、多くの観光客が直島を訪れている。しかし、現地での受け入れ体制は十分とは言えず、どこに行けばいいのか、何を見ればいいのか、戸惑っている観光客をよく見かける。またメンバー自身も、活動の拠点としている直島についてより多くの知識を身に付け普段の活動に活かしたいと考えた。これらの経緯が重なり私たちのプロジェクトでは、四国汽船株式会社が所有している直島行きフェリーの中で観光ガイドを行うことにした。

観光ガイドを行うにあたり、観光客の方がどのような情報を求めているのか知るための事前アンケートを実施した。また一部のメンバーは直島へ視察に赴き、メンバー自身の直島に関する知識の向上を図った。

直島にはすでに既存のガイドマップが多く存在している。しかし今回の観光ガイドでは、それら既存のガイドマップには載っていない観光スポットや直島の魅力を伝えることに重点を置いた。

(2) 実施期間

平成 29 年 7 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

(3) 成果の内容

1) このプロジェクトの具体的な成果

①2017 年 7 月 15～16 日, 2017 年 7 月 22～23 日, 2017 年 7 月 29～30 日 船内アンケート
船内ガイドを行うにあたり、観光客がどのような情報を求めているのか知るために、事前準備として船内でアンケートを実施した。具体的な実施方法は以下の通りである。8 時 12 分の高松発直島行のフェリーに乗ってアンケートを配布する。アンケート中はスタッフということが分かるようメンバー 3 人全員同じ服を着用し、香川大学の腕章をつける。同様のことを 10 時 14 分のフェリーでも行う。このアンケートは直島になぜ来たのか、どの情報媒体から直島を知ったか、などを知るために行った。成果として日本語版 331 枚、英語版 83 枚の計 414 枚集まった。調査結果を踏まえることにより、観光協会が作っているモデルコースとは違う、学生目線のコースを事前に作成することができた。

②2017 年 8 月 31 日 試験ガイド

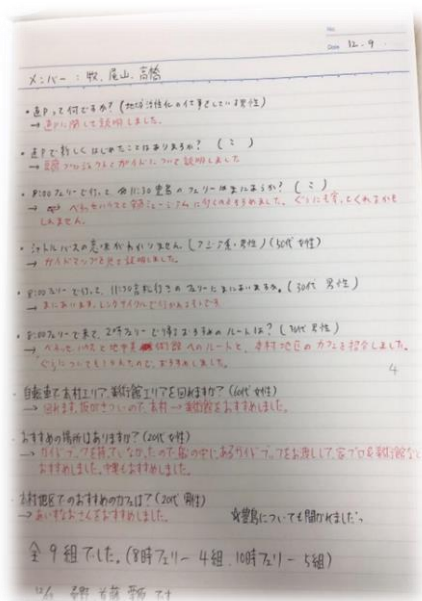
得たアンケート結果をもとに、観光客が知りたい情報を調べ、アウトプットの機会として試験ガイドを行った。具体的な方法としては、ブースを設けず船内を歩き回るといった形でガイドを行った。出た質問と回答は 1 冊のノートにまとめ、かつプロジェクトラインで共有した。これらの工夫により、当日ガイドに入っていなかったプロジェクトメンバーの知識の均等化を図った。

③2017 年 9 月～1 月毎週土曜日 船内ガイド

8 月 31 日の試験ガイドをベースに 9 月から 1 月の間で年末などを除いた計 17 回船内ガイドを行った。試験ガイドでの経験を活かし、なるべくゆっくり歩き回り、ガイドのアナウンスが均等に行き届くようにした。

④2017 年 9 月 25 日 視察

ガイドを行っていく中で、やはりメンバーの直島に関する知識を深める必要があると感じたため、9 月 25 日に直島を訪問した。直島全域を歩くことで、実際に徒歩にかかる時間や、トイレの位置などを確認することが出来た。また、マップには記載されていない隠れたスポットを巡ることは当初の目的に一致していた。





⑤今後の予定

ガイドを継続させていく中で、得た知識をより多くの方々に共有したいと考えるようになった。そこで、当初の計画では出ていなかったガイドブックの作成という案が挙げられた。このガイドブックには学生ならではのおすすめの写真スポットや、島民の方しか知らない絶景スポットなどを記載する予定である。

観光ガイドにおける反省点は、視察で得た知識を視察に行けていないメンバーへフィードバックができていないことである。そこで改善策として、ガイドの研修会を行うことを考えている。行った場所の正確な地図や所要時間、おすすめの景観などをプレゼンテーション方式で紹介するつもりである。

2) このプロジェクトがもたらした大学や地域社会の活性化、学業の振興などに対してもたらした影響あるいは効果

このプロジェクトが地域社会の活性化においてもたらしたことは、直島の観光事業の発展である。今回のガイドで聞かれた質問の大半が直島の交通に関することであった。直島の観光マップは既に直島観光協会によって発行されており、中にはバスの時間やフェリーの時間などが記載されている。しかし、そもそもバス停やフェリー乗り場の位置がわからないという観光客は意外と多い。このように、既存のガイドマップでは対応しきれない問題を、当プロジェクトが補うことにより、観光客の受け入れ態勢が十分でない直島の観光事業を支えることができた。そのほかにも香川大学生が、直島で活動していることを学外の方にも知ってもらいきっかけとなり、香川大学が地域活性化に取り組んでいることを知ってもらいことにもつながった。学生自身への効果として、直島の魅力を再発見するよい機会になるだけでなく、ガイドを行うまでの計画段階の話し合いなど、座学では知り得ないことの大切さを知った。

(4) このプロジェクトから学んだこと

まず一つ目に、自分の知識・考えを人に正確に伝えることの難しさを学んだ。自分の知っていることを話すだけでは、相手にはうまく伝わらず互いの認識に齟齬が出る。当初考えていたガイドの方法では一方的に話すだけになり相互のコミュニケーションが取れなくなる。今回当プロジェクトに全面的に協力していただいた四国汽船株式会社の助言をいただくことで、現在のガイド形態で観光客との交流をとることができ、直島に着く前から旅の楽しさを感じ取ってもらうことができた。しかし、すべての質問に答えることはできず、本来のガイド事業がうまく行えていないことを感じた。個々人で答えが異なる質問もあるため、すべてを正確に答えることはできないが、直島に実際に行くことでわかることもある。今後も直島には営業でいくことがあるが、それ以外にも研修という形で直島のことを調べていきたいと考えている。

二つ目は楽しんで活動を行うことの大切さである。ガイドを始めたばかりの頃は何をしたら良いのかわからず、悩むことが度々あった。しかし経験を積んでいくと、余裕が生まれ、観光客からの質問にただ答えるだけでなく、話を膨らませながら答えることが出来るようになった。またメンバー自身も、自分の直島に関する知識に対して自信をもてるようになった。やっていることに対して不満を持ちながら活動するのではなく、楽しみながら活動すると、ガイドを行っている相手にもその気持ちが通じガイドを行いやすかった。

今後は観光ガイドで学んだこれらのことを活かし、現状に満足せず、どのような対応をすれば観光客に有意義な時間を過ごしてもらおうことができるのか考えていきたい。

(5) 実施メンバー

代表：難波恵伍 (経済学部 2年)
嶋田梨沙 (教育学部 2年)
中村初音 (教育学部 3年)
原雄一朗 (経済学部 3年)
大野あゆみ (経済学部 4年)
小原直大 (経済学部 3年)
藤本釉美 (経済学部 3年)
山崎真由 (経済学部 3年)
岡村優佳 (経済学部 2年)
岡本萌花 (法学部 2年)
小川詩織 (経済学部 2年)
尾山絢菜 (経済学部 2年)
鎌倉菜七子 (経済学部 2年)
桑野渚 (教育学部 2年)
香西佐和子 (経済学部 2年)

首藤沙希 (経済学部 2 年)
多賀光洋 (経済学部 2 年)
根岸実央 (経済学部 2 年)
牧由惟 (農学部 2 年)
毛利仁美 (教育学部 2 年)
山岡麗仁奈 (経済学部 2 年)
磯山敦 (工学部 1 年)
栗原那奈 (経済学部 1 年)
小林弦生 (経済学部 1 年)
高橋真由美 (教育学部 1 年)
田村遥菜 (経済学部 1 年)
藤森世紀 (経済学部 1 年)